

古高取通信

No.15

平成25年11月

古高取を伝える会会報

直方の高取焼



| | |
|------------|---|
| 古高取の魅力を伝える | 2 |
| お知らせ | 2 |
| 活動の記録 | 2 |
| なんでも掲示板 | 2 |

「共助」

共助という概念は自助、公助という用語とならんで、主として災害対応時における地域住民の相互支援の意味に使われている。ここにきて、本会をはじめ数多くの市民グループがめざしている地域おこしという社会活動の総合的見地からすれば、相互協力による共助体制がなにより不可欠である。

各グループ組織間の情報の伝達交換はもとより、コラボレーションによる具体的なアイディアの交換は、新たにまちおこしのエネルギー源であり、さらには、グループ相互間の共助を基本にすえた研鑽は、将来的な意識の高揚と発展につながることは必定である。

古高取の魅力を伝える

黒田長政と細川忠興

古高取を顕彰する会

田丸雄一

秋晴れの日遠賀川の川辺に遊べば、砂地や砂利敷の河原に縄文、弥生、須恵（遠賀川式）などの土器

利採集事業が存在し、流域の所々を移動する砂揚げ場があり、古代の大きなメタセコイアやカシ、シイの流木が埋まつた場所からは、土器が砂と一緒に出土していた。

直方、日の出橋周辺では大雨の後には、大きな壺や瓶を採集したと聞く。

慶長五年九月、関ヶ原合戦の後、徳川家康より黒田長政は戦功第一として、豊前十二万石より筑前五十二万三千石の国替となり、隣国豊前には細川忠興、幽斎藤孝父子が、丹後宮津二十三万石より三十九万九千石を与えられ中津城に入城した。共に慶長五年の年も押しつまつた十一月のことだ。長政は領国の治政を優先し秀吉が町割し



鷹取城と武家屋敷城下町跡

を選び築城し、小倉の町を整備拡大している。黒田と細川は共に一国一城の発令前十ヶ年の間に城作り、町作りの公共投資を広く領内に手当し、領民の生活の安定と治安の保持、殖産興業に努めた。

院を慶長十五年より父幽斎藤孝のために創建し、付属した松向軒の茶室は、北野大茶会に作つた茶屋名をそのまま使い、朝鮮より持ち帰つた宝塔を活用した「袈裟形の手水鉢」を立ち手水として使用している。利休遺愛の六尺燈籠は、自分の墓石として寺内に据え立て今に伝来している。黒田、細川父子は戦乱の世を生き抜いた武人であり当代一流の文化人であり、治世経国の達人でもある。



従是豊前國小倉領の石碑。
町境標の横に立つ。

り文化、交通の要路であつた。石炭を産出する土地には炭層の上に良質な陶土が豊富に含まれ、北部九州の窯業地はすべて近代には石炭産業が栄えていた。

福智山下の高取焼・永満寺宅間窯、上野焼釜の口窯は、それぞれ長政と三斎（忠興）の命によつて、朝鮮陶工八山と尊階は国境の手が届くような近くに同時期に窯を築き、豊富な資源を活用し施釉式の上質な陶磁器を製造した。



宅間窯跡より跳離100mの国境標

福智山ダムの底に沈んだ道を通り、小中高そして大学時代、何回福智山に登った事だろう。その道のすぐ脇に、江戸初期に造られた世界的にも巨大な登り窯が在つたとは、当時は全く知らなかつた。一九七五年に再び直方市の住人になり、内ヶ磯の池の上にダムができるのでその予定地にある窯跡の大掛かりな発掘調査が行われていると聞いたが、それでもそんなに貴重な物だとの認識はなかつた。その後直方市議になり、知人を通じ

オーキングをすれば福智山ダムの内ヶ磯窯へ行くのと上野の陶境をめぐるのは上野峠の方がずっと楽な道のりである。

参考文書

「京都名園記上巻」誠文堂新光社
「大名茶陶高取焼」福岡美術館
「国焼茶陶上野焼展」赤池町

古高取と歴史資料館

直方市議会議員 安武俊次

宅間窯より豊前国境まで一〇〇メートル、釜の口窯まで二キロ・メートルの至近距離である。直方の花公園から福智山麓めぐりのウ

て内ヶ磯窯とその発掘品の説明を受け、ようやくその歴史的価値と古高取の美術品としての価値を理解したのであつた。しかしながら直方市はその発掘品のほとんどをただ収蔵し、一部が中央公民館の、通常は鍵の掛かった部屋に展示されているだけである。これは直方市民としてあまり寂しいし情けないと思い調査すると、郷土史研究会が昭和五十二年に古文書等歴史資料の保管施設の設置の請願書を提出、昭和五十六年に歴史資料館の建設要望書を提出している事が



直方市中央公民館

直方官兵衛君がんばれ！

古高取を伝える会
副会長 末松 登志子

で、小規模でもいいからと具体的な展示場所を提示して誰でも発掘品を見学できるようすべきであると一般質問したのであるが、これも未だに実現できていない。

一体直方市の行政は郷土の歴史と文化に誇りと自尊心はあるのだろうかと思うばかりである。歴史資料館の建設の実現を目指して、皆さん、共に頑張りましょう。

宅間窯開窯四〇〇年祭から十年余りが経過し、来年が内ヶ磯窯開窯四〇〇年になります。

四〇〇年祭を成功させたことを契機に四〇〇年前に茶陶をリードしてきた素晴らしい文化遺産の価値をどう次世代に伝えて行くのか子供達にどう継承して行くかを考え平成十八年に「古高取を伝える会」が発足しました。

来年に向けて「伝える会」でも何かを発信する方法を理事会で議

題についていた矢先にNHK大河ドラマ「黒田官兵衛」が決定し、よくこの時期にと運命を感じました。

黒田官兵衛は、播磨姫路四万石から秀吉による九州平定後大分中津城主になります。

その地を治めていた豪族宇都宮鎮房のはげしい抵抗にあいますが、殘忍極まりないやり方で滅しています。

ですから、築上町一帯は憎き千倍の官兵衛なのですが、NHKの大河ドラマが決まったと同時に「黒田官兵衛最大の宿敵、宇都宮鎮房」の登り旗で町中盛り上がりを見せているのです。

関ヶ原を経て、中津城主から福岡五十二万三千石の国主になりますが、早々に長政に家督を譲り軍師・策師・そして風流を愛し茶人でもあつた官兵衛は、福岡城の完成を見ることなく一六〇四年に五十九才で没しています。

直方に關わる黒田藩は長政の時代から始まっています。

高取焼は一六〇六年、永満寺宅

間に始まります。宅間・内ヶ磯・

山田・白旗・小石原・西新の福岡藩内を転々として明治になつて御用窯としての役目を終えています。

黒田藩六端城の一つである鷹取



ふくおか官兵衛くん

「ふくおか官兵衛くん」かわいいマスコットをあちこちで見るようになりました。「直方官兵衛君」を作つて大いに盛り上げたいものです。「姫路官兵衛君」も播磨の方でも登場しています。「直方官兵衛君」が頭にかぶるのは高取焼？

何か良いイベントの案なり、ご希望がありましたら事務局までお知らせ下さい。参考にさせて頂きります。

お知らせ

●直方のお宝「古高取」の鑑賞 & 窯跡めぐりの旅（おいしい昼食付）

（平成二十五年十一月十六日（土））

集合時間：十時
コース：直方中央公民館→ガラス館→福智山麓はな公園→宅間窯跡→福智山ダム（内ヶ磯窯跡）

本年の紅葉ウォーキングは、直鞍（ちよつくら）ふれ旅の企画にて実施致します。皆様、お誘い合わせの上、ご参加ください。

（記）

開催日　十一月二十三日（土）
時間　　十時三十分

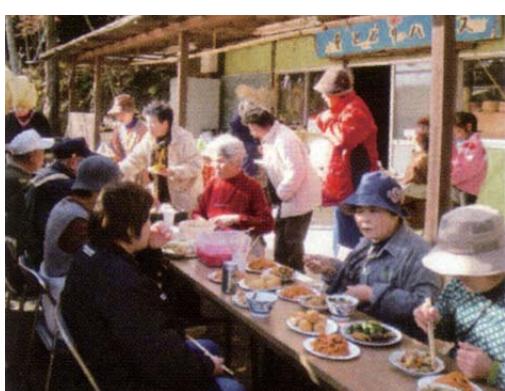
集合　　里山もどどりハウス
参加費　千円、子供（五百円）

今年も直鞍（ちよつくら）ふれ旅に参加します。皆様、お誘い合わせの上、ご参加くださいませ。

●秋の里山散策 & 森のご馳走ランチ
（平成二十五年十一月二十三日（土））
場所：里山もどどりハウス

※直方中央公民館から花公園への移動は車にて行います。送迎の希望者がある場合は担い手の方で対応します。

開催日　十一月十六日（土）
時間　　十時（十四時（予定）
集合　　直方市中央公民館
参加費　千円（はな公園での昼食代と入園料込）



活動の記録

●古高取基礎研修講座

△平成二十五年七月～十二月△



●夏休みの里山で、高取焼きの陶芸体験＆そうめん流し

△平成二十五年八月二十一日(木)△
場所：もどりハウス

八月二十二日(木)に直方・鞍手広域連携プロジェクト推進会議主催による、ちよつくりら(直鞍)ふれ旅・夏休み限定体験イベントが開催されました。

うだるような暑さの中、大人十四名・子供十六名の参加があり大盛況でした。子供たちも無心に土をこね、世界にたつた一つだけのマイ茶碗を作

学習部会では、本年度は『史料による茶の歴史／茶の初見から千利休切腹まで』という題目で、文献史料を用いて講義を実施しています。実施場所は直方中央公民館横の「えみくる」で、午後二時から四時まで、月一回最終土曜日です。

講座は基礎研修として

①文献史料を用いながら四回に亘り、読み上げていく。

②講座の最終講義として、九州大学教授の、中野等氏による『豊臣秀吉と文禄・慶長の役』という演題の講演会を実施する。
③高取焼歴史散策として、福岡市西部地区を中心に、西新・高取地区をまわる。(平成二十六年一月中旬実施予定)

現在、①の四回終了しています。次回、②の講演会は、十二月七日(土)十三時三十分から、直方中央公民館二階で実施します。是非ご参加下さい。

副島 邦弘



●子供焼物教室

△平成二十五年五月～十一月△
場所：直方市内の小学校

今年度、市内十一の小学校の六年生を対象にした焼物教室も残り二校のみとなりました。毎年、素敵な作品と思い出が残っています。将来が楽しみです。

焼物教室の様子を少しだけ紹介致します。

「第八回」

△平成二十五年七月十七日(水)△
場所：植木小学校



なんでも掲示板

● 金剛山もどり協議会だより
（平成二十五年九月三十日（月））
場所：もどりハウス

秋の味覚満喫の収穫祭の行事を
九月三十日（月）に終えました。

里山保全活動の一環として平成
二十二年五月に発足し少しづつ会
員さんも増えています。

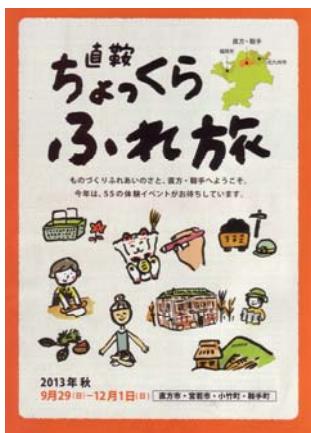
収穫祭で行う栗拾いは、樹齢五
十年くらいの老木ですが、保全活
動で山に入る様になり栗の実も
たわわに付く様になり私達の活動
に応えてくれています。

四季折々の里山の自然是元気を
くれます。

末松 登志子

● のおがた須崎町公園ステージ開催
（平成二十五年八月二十四日（土）・
二十五日（日））
場所：直方市須崎町公園

● 直鞍（ちよつくら）ふれ旅開催中
（平成二十五年九月～十二月）
場所：直鞍地域



申込先 直方市観光物産振興協会
準備室 電話 ○九四九一七八一三五

する”ものづくり・ふれあい”を
テーマにした、直鞍（ちよつくら）
ふれ旅が開催中です。
古高取を伝える会も参加してい
ますが、その他にも素敵な体験イ
ベントがたくさんあります。皆様、
参加してみてはいかがでしょうか。
本当に早いものですね。会報も
十五号になりますが、振り返っ
てみると今まで様々な活動をし
てきたものだと、本当に感心致
します。継続は力なりと思いま
す。皆様、今後ともどうぞ宜し
くお願い致します。

十一月も迫って、急に寒くな
ったように思います。お身体に
お気を付けてください。

（編集後記）

前回の発行から、あつと言
う間に三ヶ月が過ぎてしまい、今
年内の発行はこれが最後になる
と思いますが、月日の経つのは
本当に早いものです。会報も
十五号になりますが、振り返っ
てみると今まで様々な活動をし
てきたものだと、本当に感心致
します。継続は力なりと思いま
す。皆様、今後ともどうぞ宜し
くお願い致します。

「古高取通信」会報・NO 15

（発行）
古高取を伝える会

（発行日）
平成二十五年十一月十日

（現在の会員数）
正会員 七十名（七十口）
賛助会員 二十名（二十口）
団体 三団体（三口）

（マイ茶碗の数）
4298個

（事務局）
〒八二二一〇〇一六
福岡県直方市津田町七十四
TEL ○九四九（三三）一三一

八月二十五日（日）、古高取の
PRも兼ねて呈茶サービスが行わ
れました。今回は、二十四時間テ
レビの募金活動も行われていたの

直方・鞍手広域連携プロジェクト
推進協議会（直方市・宮若市・
小竹町・鞍手町・福岡県）主催に

（掲載内容募集）
「古高取」の魅力を発信するた
めのイベント情報など募集して
います。掲載可能な情報等がござ
いましたら、事務局までご連絡
ください。